横芝の碑（その七）

郷土の子弟 育英に挺身

＜成蹊学舎長伊藤先生謝恩の碑＞

横芝駅前千葉交通営業所の横の道は栗山川の堤に通じています。その道が堤に突当ろうとする約百メートル手前の左側一帯は墓地になっていますところが、この墓地は手入れが行き届いているためか「枯草の中から塔婆が顔を出している」と言った凄愴さや暗さは全くありません。月並な言葉で言えば「安らかな永眠の場所」と言った感じです。

この墓地の中に墓標とは異って、何かそれぞれの墓標に話しかけてでもいる様に見える一際高い碑が建っています

これは横芝町教育界の功労者成蹊学舎創設の人、故伊藤英次郎先生謝恩の碑です。

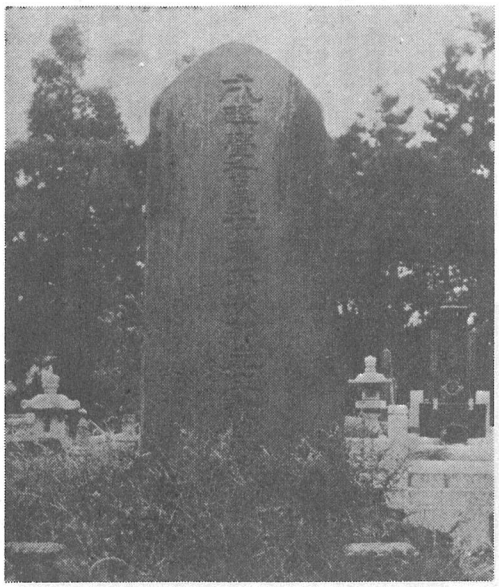
成蹊学舎とは、横芝町に明治二十六年に創立された旧制中等学校です。

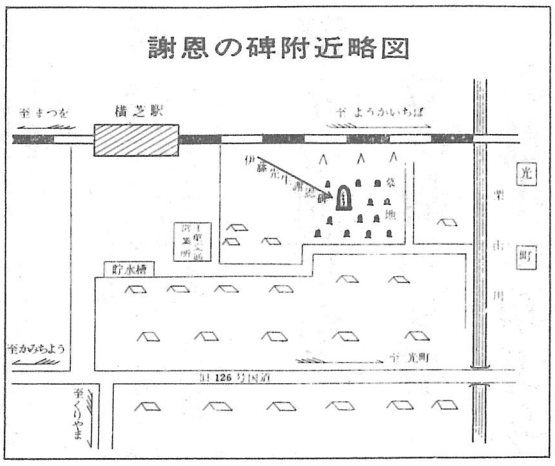
先生は明治三年当時の旭村（現横芝）に生れ、慶応義塾を卒業、明治二十六年、二十四才の時に地方教育の必要性を痛感し、学舎の創設をされたのです。学舎は大正の後期に惜しくも廃校になりました

成蹊学舎と伊藤英次郎先生のことについて、大正の中頃この学舎に学んだという東町の土屋源吾さん（町史編纂委員）は、「二十四才という若さで地方教育の重大さを痛感したというのですから大変なものです。始め自宅で授業を行なっていましたが明治三十二年に新校舎が完成してそこに移ったようです。記録によりますと校舎は今の東町で、田中魚店と岩沢木材の辺りが正門、奥は線路の所まで続き運動場はその真向いで、海宝商会と柳屋食堂の辺りを入口として奥に広がり、自転車競走もできる広さであったようです。教育内容は三学級に分けられていました。大体いまの高等学校というところでしょうか、県立成東高校の創立が明治三十三年ですから、それより七年も早い創立という訳ですから随分生徒も集ってきました。伊藤先生は慶応義塾創立者福沢諭吉先生の直門で同僚の人は皆、官界、財界等華やかに活動を続けている中で、敢えて郷士に踏み留まり子弟育英に挺進された先生の熱意は、その卒業生の中に萠芽し、教育家、医博、軍人実業家、又、町村長、団体長等地方における名士も沢山出ています。中でも敬愛大学学長長戸路先生は誰も知っておられる方だと思います。その敬愛高校男子部が横芝町に開校されたということは、名称は異なりましても、恩師伊藤先生の遺志が長戸路先生によって継承されたといえます。あの碑はやはり成蹊学舎門下生の佐野という医師が先達で私達門下生が建立したものです」と、話してくれました。

写真の碑には、成蹊学舎長伊藤英次郎先生謝恩碑、又背面には、伊藤英夫氏外二四七名の氏名と昭和九年十二月、門人有志建之、と刻まれています。その中には敬愛大学学長、長戸路先生始め多数の知名人の氏名も懐しく読みとれて伊藤英次郎先生の薫陶の偉大さが忍ばれます。

（給食センター　小沢所長寄稿）





し尿汲取

申込人員は基本台帳で

山武郡市広域行政組合で行なっている「し尿汲取り」の事務の円滑をはかるため、二月一日から電算機で事務処理を行なうことになりました。そこで「し尿汲取基本台帳」を整備するため、次のように申込み方法がかわりました。

1申込者は世帯主とする。

2申込人員（家族数）は、住民基本台帳に登録された人員とする。

3申込、取消、変更届については、原則として翌月から処理する。

4汲取りの際に不在の場合は汲取りしたことの証明を発行する。

現在加入済の世帯については、一月一日現在の住民基本台帳に登録されている人員で納付通知書を発行してありますので、移動を生じた世帯は役場の福祉保健課で変更届の手続きをすませてください。

農業労賃きまる

農業労働賃金の標準額が、去る三月十五日山武支庁会議室で開催された郡内農業委員長会議で次のように決定いたしました。

	男	女
田植	2,400円	2,300円
稲刈	2,400	2,300
畑作業	2,200	2,100

水田耕起　10アール当り　2,500円　人付賃耕料　耕耘深度15cm以上

機械刈取　〃　4,500円　人付賃作業料　結束用縄含む

（注）①1日当り賃金ただし実労働時間は8時間とする。
②賄回数は2回ただし賄評価額は含めない。